



2017年3月期 決算説明資料

株式会社ダブルスタンダード（証券コード：3925）

代表取締役 清水 康裕

2017年5月12日

## 1. 2017年3月期 決算概要 . . . P.3

- (1) 決算ハイライト . . . P.4
- (2) 連結損益計算書 . . . P.5
- (3) 連結売上高 . . . P.6
- (4) 事業別売上高 . . . P.7
- (5) 連結営業利益 | 経常利益 . . . P.8
- (6) 連結原価 | 販管費 . . . P.9
- (7) 連結貸借対照表 . . . P.10
- (8) 連結キャッシュ・フロー . . . P.11
- (9) 配当政策 . . . P.12

## 2. 2018年3月期 業績予想 . . . P.13

- (1) 基本方針 . . . P.14
- (2) 連結業績予想 – 売上高 . . . P.15
- (3) 連結業績予想 – 営業利益 . . . P.16
- (4) サマリー . . . P.17
- (5) 事業別業績予想 . . . P.18

## 3. 事業説明 . . . P.19

- (1) 基盤技術の概要 . . . P.20
- (2) 事業説明（事例 | 含：開発中） . . . P.21

本資料の予測数値は、本資料の発表日までに入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、今後様々な要因によって異なる結果となる場合があります。



# 2017年3月期 決算概要

---

決算ハイライト

1

**今期2度の業績上方修正  
創業来最高の売上高・営業利益を継続達成！**

売上高	<b>1,364,679</b> 千円	(前期比 +416,151千円、+43.9%)	
営業利益	<b>406,146</b> 千円	(前期比 +149,504千円、+58.3%)	

2

**業績拡大につき、本社移転、要員増員、仕組み強化を実施  
今後の業容拡大に向けた基盤作りの先行投資強化**

3

**合併会社「TRANSIBLE株式会社」を設立  
その他、新たな領域における新サービス創造・展開を目指す**

 連結損益計算書

### 案件数拡大による売上高増

新規案件および既存案件のアップセル・クロスセルが順調に推移し、移転に伴う一時コスト、その他恒常的に発生する人件費、物件費の増加を吸収し増収増益を達成

### コスト削減による収益率向上

システム化・オペレーション改善によるコスト削減効果により、高利益率を維持

(単位：千円)

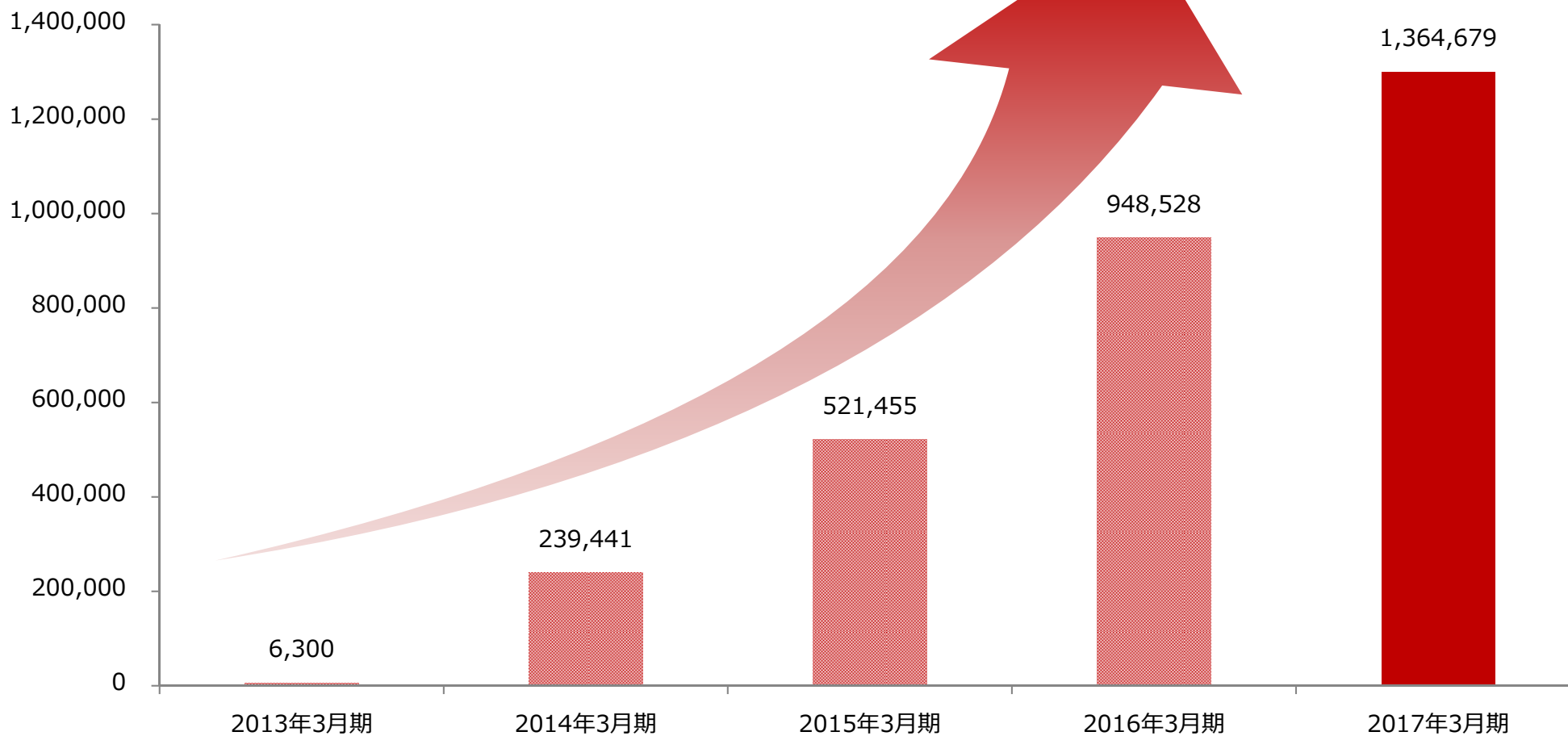
	2017年3月期	2016年3月期	前期比		計画数値			
	実績	実績	金額	増減率	当初計画	8月公表	2月公表	達成率
売上高	1,364,679	948,528	+416,151	+43.9%	1,084,689	1,204,992	1,350,288	+101.1%
売上原価	594,412	422,635	+171,776	+40.6%	409,152	475,379	599,403	+99.2%
売上総利益	770,267	525,892	+244,374	+46.5%	675,536	729,613	750,885	+102.6%
販管費	364,120	269,250	+94,870	+35.2%	325,270	329,126	344,845	+105.6%
営業利益 (利益率)	406,146 (29.8%)	256,641 (27.1%)	+149,504	+58.3%	350,265	400,487	406,040	+100.0%
経常利益 (利益率)	408,704 (29.9%)	248,786 (26.2%)	+159,918	+64.3%	350,305	400,527	406,080	+100.7%
当期純利益 (利益率)	266,596 (19.5%)	159,135 (16.8%)	+107,460	+67.5%	220,692	252,332	254,000	+105.0%

■ 連結売上高

新規案件および既存案件の追加受注が大幅に増加したことによる売上高の拡大

売上高

(単位：千円)



事業別売上高

**ビッグデータ関連事業**

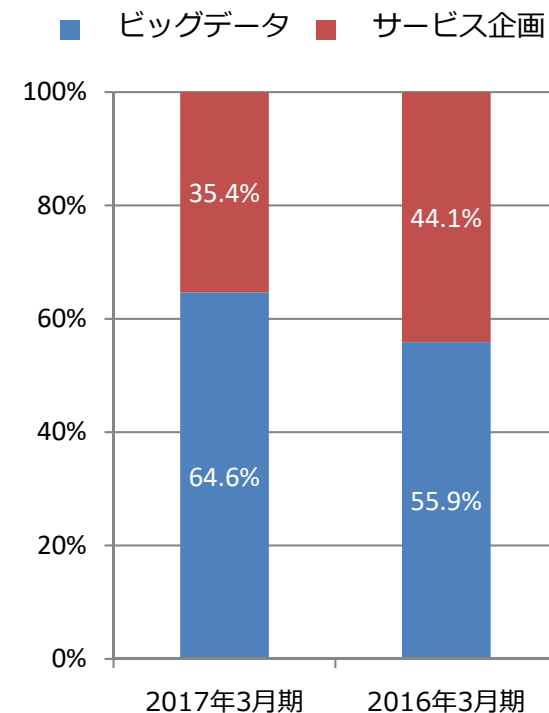
一部解約が発生したものの、それを大きく上回る受注により、当社の安定的な収益源であるストック型売上として受託件数及び受託金額を大きく伸ばし、増収を実現。

**サービス企画開発事業**

大手企業を中心とする開発案件、BPO関連案件等の受託により、想定以上の受注件数となり、増収を実現。

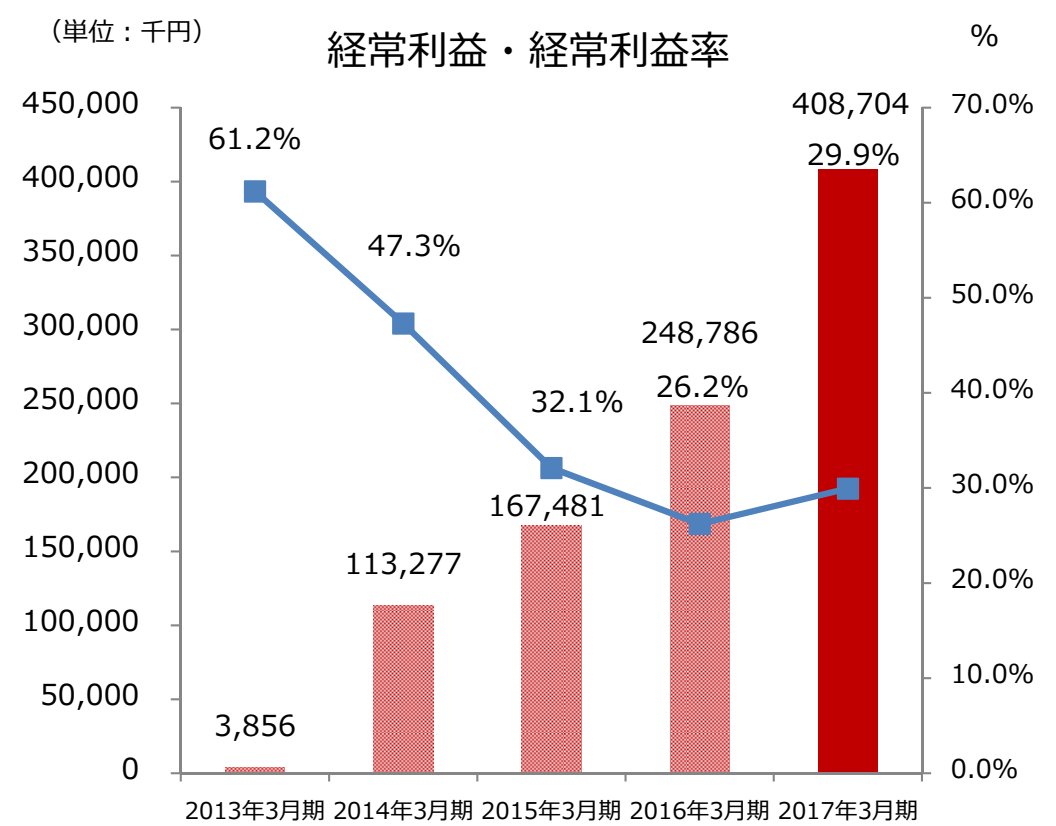
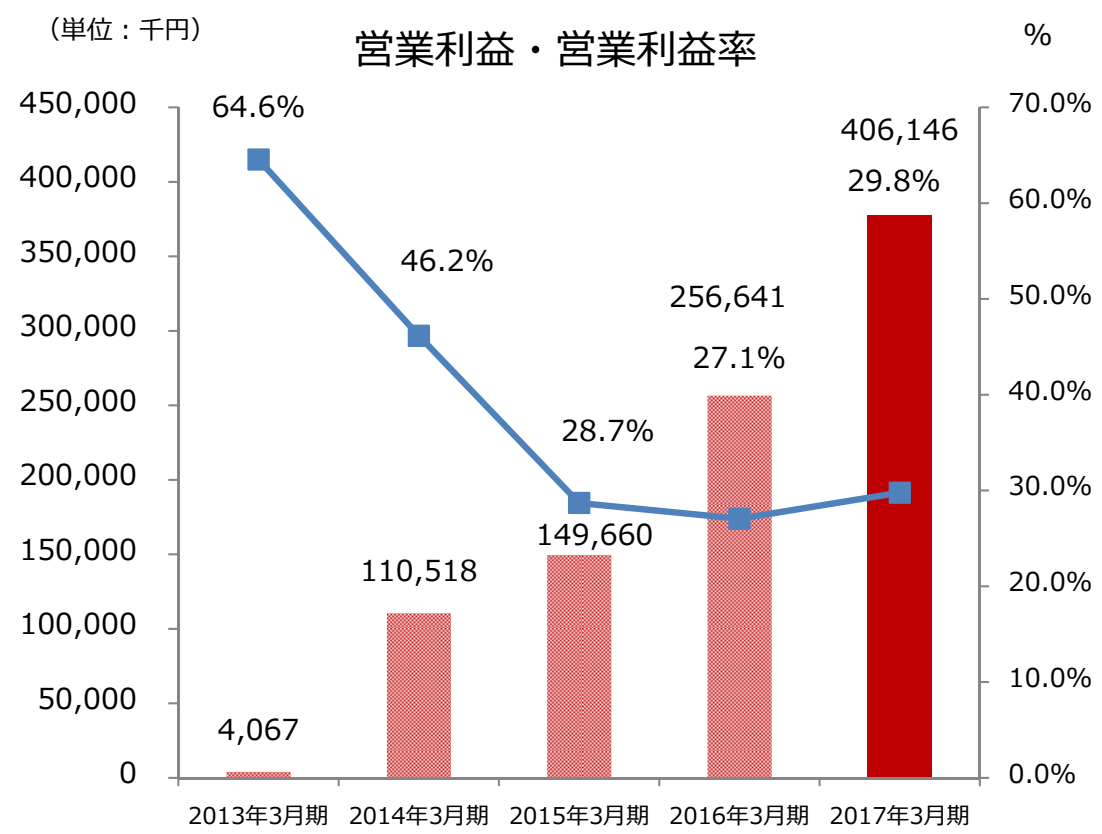
(単位：千円)

	2017年3月期 実績		2016年3月期 実績		売上高前期比	
	売上高	構成比	売上高	構成比	金額	増減比率
合計	1,364,679	100.0%	948,528	100.0%	416,151	43.9%
ビッグデータ 関連事業	882,107	64.6%	530,405	55.9%	351,702	66.3%
サービス企画 開発事業	482,572	35.4%	418,123	44.1%	64,449	15.4%



■ 連結営業利益 | 経常利益

**売上高大幅増加による収益拡大**  
**継続実施している業務オペレーション改善に向けた各種投資の効果によるコスト抑制効果**





■ 連結原価 | 販管費

**売上原価**

オペレーション改善及びシステム化に向けた先行投資を実施

(単位：千円)	2017年3月期	2016年3月期	前期比	
	実績	実績	金額	増減率
原価総額	594,412	422,635	+171,776	+40.6%
通信関係費	73,523	59,755	+13,768	+23.0%
外注委託費	556,811	386,568	+170,242	+44.0%
労務費	46,529	76,519	△29,989	△39.2%
減価償却費	31,226	14,915	+16,311	+109.4%

**販管費**

積極的な採用活動による人件費の増加及び本社移転による地代家賃の増加

(単位：千円)	2017年3月期	2016年3月期	前期比	
	実績	実績	金額	増減率
販管費総額	364,120	269,250	+94,870	+35.2%
人件費	181,783	148,893	+32,890	+22.1%
地代家賃	23,459	16,799	+6,659	+39.6%
減価償却費	9,201	3,781	+5,420	+143.4%
その他	149,675	99,776	+49,899	+50.0%

## ■ 連結貸借対照表

増収増益による流動資産（現金及び預金、売掛債権）、本社移転による固定資産（建物）の増加等により総資産が対前年比43.2%増加

(単位：千円)	2017年3月期	2016年3月期	前期比較	
	実績	実績	金額	増減比率
現金及び預金	1,018,119	924,462	+93,657	+10.1%
売掛金	178,884	71,959	+106,924	+148.6%
固定資産	279,713	93,021	+186,692	+200.7%
買掛金	152,814	43,244	+109,570	+253.4%
純資産	1,055,025	857,088	+197,937	+23.1%
総資産	1,591,926	1,111,458	+480,468	+43.2%
自己資本比率 (%)	66.2%	77.1%	—	—

■ 連結キャッシュ・フロー

営業活動によるキャッシュ増加を「業務効率化・人材採用」と「株主還元」に充当。  
引続き「業務効率化」および「人材教育」と「新規サービスの開発」に充当予定。

(単位：千円)	2015年4月1日 ～2016年3月31日	2016年4月1日 ～2017年3月31日	増減
営業活動によるキャッシュ・フロー	245,274	328,605	+83,331
投資活動によるキャッシュ・フロー	△38,912	△165,391	△126,479
財務活動によるキャッシュ・フロー	479,204	△ 69,556	△548,760
現金及び現金同等物の増減額	685,565	93,657	△591,908
現金及び現金同等物の期首残高	238,896	924,462	+685,565
現金及び現金同等物の期末残高	924,462	1,018,119	+93,657

■ 配当政策

**配当方針**

当社グループは株主の皆様に対する利益還元を重要な経営課題であると認識しております。上場間もない当社ではありますが、継続的に株主の皆様に対する利益還元を実施する方針であります。配当金につきましては、内部留保による財務体質の強化を図りつつ、連結業績および財政状態を勘案しながら、利益配当を行っていく方針であります。

**配当性向**

2017年3月期の連結配当性向につきましては**25%を目安**とし、上方修正による当初計画値からの増益を踏まえまして、配当性向は39%（特別配当を含む）を予定しております。

● 1株当たり配当金表

	1株当たり配当金（円）			配当性向（%）	ROE（%）
	中間	期末	合計		
2016年3月期	－	26円※	26円	41.0%	21.8%
2017年3月期	－	33円※	33円	39.0%	26.4%
2018年3月期（予想）	未定	未定	未定	－	－

※2016年3月期は普通配当16円と上場記念配当10円、2017年3月期は普通配当21円と特別配当12円を合算して記載しております

# 2018年3月期 業績予想

---

## 基本方針

1

### 「新規見込客との折衝強化 | B2B向けサービス開発と改修」

既存顧客からの見込客のご紹介、IPO効果による問合せの増加を受けて、対応要員の採用および育成に励行し、営業強化とサービス強化を武器に業容拡大を図ります。また、当社基盤技術の応用転用による新規サービスの断続的な企画及び開発を実施してまいります。

2

### 「サービス提供価格の積極的抑制と業務効率化での収益率向上」

顧客との中長期にわたる関係維持強化を踏まえ、既存サービスの提供単価を積極的に抑制し、顧客貢献を実現します。当社は、かかる状況下においても、継続的に対応しております人的オペレーションの自動化範囲の拡大により、更なる収益性の改善を見込んでおります。加えてサービス提供単価の抑制による売上高減少をサービス案件数獲得にてカバーいたします。

3

### 「当社安定収益源であるストック型案件の継続率向上」

広告宣伝費や販売促進費といった費用対効果を期待される業務ではなく、顧客に必要不可欠な基盤業務委託によるコスト削減効果に寄与できるサービスを目指し、継続率の更なる向上を目指してまいります。

■ 連結業績予想 – 売上高

**事業の安定成長**

当社の安定収益源であるビッグデータ関連事業、サービス企画開発事業ともに、2018年3月期においても継続して安定成長を見込んでいます。

**「要員の質量強化」と「徹底した業務効率化と積極的な価格見直し」**

事業成長を加速度的に展開するうえで、現在の極めて高い継続率を当社の「既定路線」とし、既存事業においては、対応要員の質量強化、顧客企業から高くご評価いただいている品質および価格に関して、徹底した業務効率化と積極的な価格抑制を敢えて実施し、更なる顧客貢献を目指します。

また、新規事業については、大小問わず、チャレンジしていきます。

当社保有の技術基盤・資産を応用・転用し、クライアントと連携した「戦略的B2Cサービス」への挑戦や、既存サービスとは大きく異なる概念を持つ「B2Bサービス」の順次展開を予定しています。

**新プロダクトがサービスインに向けて順調に進捗中**

昨年度より実施している既存取引先以外の業界向けの取組みが功を奏し、金融機関向けサービスが順調に進捗しております。当社技術基盤を転用した新たなサービスとして成長させるとともに、次の新しいサービスに向けた活動としても取り組んでまいります。

■ 連結業績予想 – 営業利益

**「要員の質量強化」と「徹底した業務効率化と積極的な価格見直し」**

事業成長を加速度的に展開するうえで、現在の極めて高い継続率を当社の「既定路線」とし、既存事業においては、対応要員の質量強化、顧客企業から高くご評価いただいている品質および価格に関して、徹底した業務効率化と積極的な価格抑制を敢えて実施し、更なる顧客貢献を目指します。

上記を実現させるため、教育及び研修による社員レベルの向上、人的オペレーションの自動化範囲拡大によるサービス提供単価の抑制を実現させるべく積極的に投資を行ってまいります。

**「業容拡大による人材採用およびインフラ強化」と「断続的な新規サービス開発」**

業容拡大中の当社において、本年1月に実施した本社移転により地代家賃等の販管費増加がある一方、全体的な販管費の見直しを実施し、コスト抑制を実現すべく邁進してまいります。

ただし、採用および教育といった人材にかかるコスト、セキュリティや業務効率向上実現のためのシステムコストについては積極的に投資を行ってまいります。

また、当社保有の技術基盤・資産を応用・転用した新たなサービス企画・開発についても、積極的に先行投資を行ってまいります。



## サマリー

**売上高**

順調な案件増加および新規プロダクトのサービスインを見込む

 予想売上高 **1,641,060千円**

 前期比 **+20.3%**
**営業利益**

増収および適切な販管費の見直しにより、利益率向上を見込む

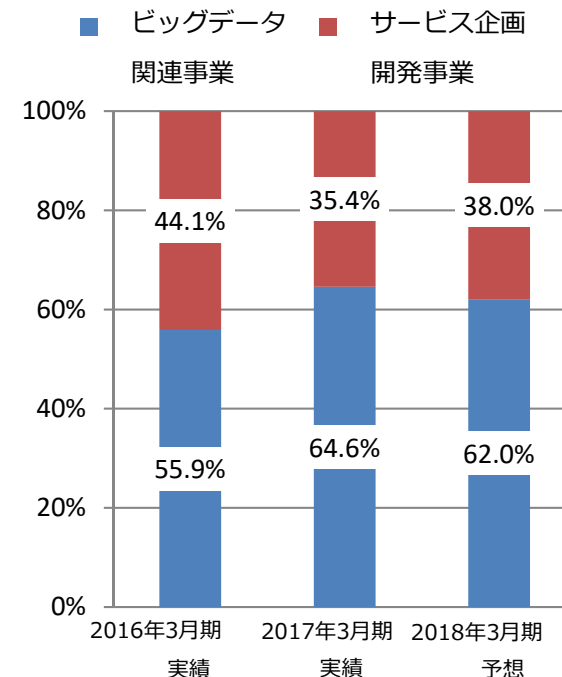
 予想営業利益 **490,244千円**

 前期比 **+20.6%**

(単位：千円)	2016年3月期	2017年3月期 実績	2018年3月期 予想	
	実績	実績	予想	前期比
売上高	948,528	1,364,679	1,641,060	+20.3%
売上原価	422,635	594,412	697,433	+17.3%
売上総利益	525,892	770,267	943,626	+22.5%
販管費	269,250	364,120	453,382	+24.5%
営業利益 (利益率)	256,641 (27.1%)	406,146 (29.8%)	490,244 (29.9%)	+20.7%
経常利益 (利益率)	248,786 (26.2%)	408,704 (29.9%)	494,304 (30.1%)	+20.9%
当期純利益 (利益率)	159,135 (16.8%)	266,596 (19.5%)	322,697 (19.7%)	+21.0%

事業別業績予想

	2016年3月期 実績		2017年3月期 実績		2018年3月期 予想		
	売上高	構成比	売上高	構成比	売上高	構成比	売上高 前期比
合計	948,528	100.0%	1,364,679	100.0%	1,641,060	100.0%	+ 20.3%
ビッグデータ 関連事業	530,405	55.9%	882,107	64.6%	1,017,457	62.0%	+ 15.3%
サービス企画 開発事業	418,123	44.1%	482,572	35.4%	623,603	38.0%	+ 29.2%



**ビッグデータ関連事業**

一部解約が発生したものの、それを大きく上回る受注が順調に進んでおります。複数の新規顧客との折衝中案件も多数存在しており、当社の安定収益源であるストック型売上として昨年度に引き続き売上増加を見込んでおります。

**サービス企画関連事業**

新しい業界向けの取組みが功を奏し、まずは金融機関向けサービスの開始に向けて進捗中。その他既存顧客以外の業界との折衝も既に開始しており、売上増加を見込んでおります。

# 事業説明

---

基盤技術の概要

ビッグデータ関連事業

「技術の組み合わせ」で出来るサービス

●HTML情報活用型サービス

クロールで取得した情報に対し、当社クレンジング技術を活用して高精度のデータを生成。競合ポータルの分析や、営業用のアタックリストとして活用いただけるデータをご提供



●PDF情報活用型サービス

OCRで取得した情報に対し、当社クレンジング技術により、様々な形式に成形加工したdataを提供



●顧客DB活用型サービス

顧客の保有するDB情報を活用した、新たなコンテンツの開発・運用を支援



●帳票活用型サービス | チラシ活用型サービス

請求書などの帳票や、求人広告チラシなど紙にしかない重要情報をDB化。従来、宝の持ち腐れになっていたアナログ情報のデジタル化を支援します。



ビッグデータ処理に関する基盤技術

DOUBLE STANDARD

①情報収集

HTML、PDF、画像、請求書、帳票、音声、その他の情報収集



②情報抽出

収集情報のテキスト化・コラム化



③クレンジング

テキスト化・コラム化された情報のクレンジング



⑤レコード振分

クレンジングが完了したレコードの振分処理



④マッチング

揺らぎを含んだデータ同士のマッチング



サービス企画開発事業

「技術の組み合わせ」+「サービス企画開発力」で実現するサービス

●クローラ+情報抽出技術を活かした変更検知システム

調査対象とするサイトの情報掲載・更新を自動で定期的にチェック。最新情報の見逃し排除 + 作業効率化で顧客業務をサポートします。



●クローラ+情報抽出+情報加工+マッチング技術を活用した各種サービス

商品の最安値情報や不動産物件の賃料相場など、様々な情報をクロールで取得し、当社技術を活用して有益な情報を生成。



●情報抽出+情報加工+マッチング技術を活用した各種サービス

音声や位置情報など、非html情報をDB化。適切なデジタルレコードに変換し、顧客の販促支援・業務削減をサポートします



●その他企業向けサービス

当社技術を総合的に活用した、企業向けの様々なサービスを展開



ビッグデータ関連事業 | サービス企画開発事業 (事例 | 含: 開発中)

顧客に寄り添い、現場課題を解決するため、高度な技術と知見を活用して劇的なイノベーションを実現します！！

**ビッグデータ活用領域**

(ビッグデータ関連事業)

✓ **マーケティング活動支援システム(WEB)**



✓ **マーケティング活動支援システム(紙)**



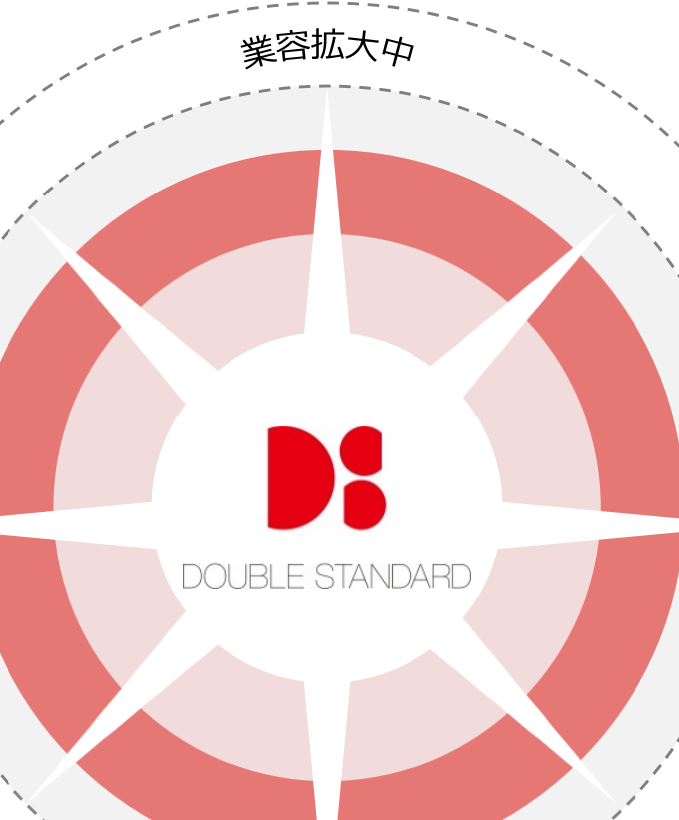
✓ **顧客データ強化・活用システム**



**RPA(Robotic Process Automation)領域**

(ビッグデータ関連事業)

✓ **バックオフィス業務自動化システム**



**FinTech領域**

(サービス企画開発事業)

✓ **WEB口座開設支援システム**



**AI 活用領域**

(サービス企画開発事業)

✓ **変更箇所自動検知システム**



✓ **音声テキスト化システム**



✓ **コンタクトセンター業務改善支援システム**



✓ **位置情報活用型マーケティングシステム**



本資料に記載されている経営戦略、計画や見通し等は、本資料作成日現在において入手可能な情報及び将来の業績に影響を与える不確実な要因に係る一定の前提条件に基づいており、当社としてその実現を保証するものではありません。

実際の業績は、業界の状況、経済の状況、金融市場の動向の他、様々な要因によって大きく変動する場合があります。予めご承知おき下さい。

本資料は、株式会社ダブルスタンダード及び当社関係会社の事業の概要へのご理解をいただくために作成されたものであり、投資の勧誘または斡旋を行うものではありません。投資に関するご判断は投資家様ご自身の責任で行われますようお願い申し上げます。

